

令和 2 年 5 月 20 日現在

機関番号：32634

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K01182

研究課題名（和文）医療の「近代化」と地域社会：近世・近代日本における地域医療の連続と断絶

研究課題名（英文）Modernization of Community Medicine in Japan: its Continuity and Discontinuity

研究代表者

廣川 和花（Hirokawa, Waka）

専修大学・文学部・准教授

研究者番号：10513096

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本の地域医療の「近代化」を近世後期から続く長期的プロセスとしてとらえ直す。使用した医療記録は、個々の医師の医学知識・診療方法・医業経営の違いを反映していたが、明治30年代以降に平準化が見られた。地域医療の実態としては、西洋教育を受けた医師が向き合った明治期の地域社会の健康上の課題を、梅毒に注目して分析した。さらに同地域の別の在村医による近世後期から明治期にかけての医業経営においては、20世紀初頭にたまるまで従来型の医療が地域社会の中で重要な役割を担っていた。両者の医療実践の比較から、明治後期にいたるまで、質の異なる医師による医療供給が同一地域内で展開していたことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、近世後期までに達成されていた「医療環境」が、近代以降にいかに関承され、あるいは継承されなかったのかという観点から、地域医療を担った医師らが実践した医療の内容そのものを比較・分析し、そこでの医療の質や水準、その地域的差異と時代的变化、患者の医療需給行為の実態、その地域における医療の課題を、開業医の診療録を素材として明らかにした。これによって、福祉国家の主要な要素である医療と公衆衛生のシステム形成を、地域医療の観点から位置づけた。

研究成果の概要（英文）：This study reexamined the modernization of community medicine in Japan, treating it as a multi-decade process initiated in the late-Tokugawa period. The multiple medical records tell us much about the nature of their medical knowledge, character of diagnostic methods, techniques utilized to manage medical practices, and methods used to standardize the composition and preservation of records around the turn of the century. By using these records, this project examined how a physician trained in Western medicine dealt with regional health problems, in particular the prevalence of syphilis. In addition, by analyzing how another physician, trained in traditional Chinese medicine, managed his practice during the late-Edo and Meiji periods, it revealed that traditional medicine remained influential into the early decades of the 20th century. Ultimately, a comparative analysis demonstrated that different kinds of doctors continued to coexist on the local level during the transitional periods.

研究分野：日本近代史

キーワード：地域医療 医学史 診療録 医療アーカイブズ 梅毒 医療史

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本の近代医療は、従来の研究では、近世医療と断絶したものととらえられてきた。確かに、明治政府が1874年に制定した「医制」による、医師の国家資格化や、医学教育における西洋医学の必修化は、「医師の近代化」を基軸に「医療の近代化」を押し進めるものであったが、日本の「医師の近代化」は、一挙に実現し得たわけではなく、1920年代に至るまで半世紀もの年月をかけて進行した。

すなわち日本の「医療の近代化」の出発は、近世末段階の医師の分布や人数などの「医療環境」に規定されていたと考えることができる。それゆえ、近世社会の医療環境の達成が、いかに近代日本に継承されたのか、もしくは継承されなかったのかを、地域レベルで検討する必要がある。

医療と公衆衛生のシステムは、税や社会保障と並ぶ福祉国家の重要な一要素であり、その形成のプロセスを明らかにすることは、日本近代史上の喫緊の課題である。日本型福祉国家の形成についての研究では、1938年の厚生省の設置から総力戦期に重点がおかれているが、「医療の近代化」は、近世後期以降のより長いスパンを射程に入れて議論すべきである。

とりわけ、明治期の開業医が日常的にどのような医療行為を実践し、地域医療がいかにして高度化・専門化したのか、すなわち、「医療の近代化」が地域社会レベルでどのように進展したかを明らかにする必要がある、その素材として診療録が適切な資料であると考えに至った。

2. 研究の目的

本研究は、明治維新後の西洋医学導入による近世との「断絶」を所与の前提としてきた日本医療の「近代化」を、近世後期から1930年代までの長期的プロセスとして、地域医療の実態からとらえ直すことを目指す。近世後期までに達成されていた地域の「医療環境」が、近代以降にいかにか継承され、あるいは継承されなかったのかという観点から、地域医療を担う「医師の近代化」に加え、彼らが実践した医療の内容そのものを比較・分析し、そこでの(1)医療の質や水準、(2)その地域的差異と時代的变化、(3)患者の医療需給行為の実態、(4)その地域における医療の課題を、開業医の診療録を素材として明らかにし、「医療の近代化」の実態を問わねばならない。それにより、福祉国家の主要な要素である医療と公衆衛生のシステム形成を、地域社会における医療のあり方から位置づけることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、主に(1)地域医療関係資料(主として研究の中核的対象時期である幕末・明治期の開業医資料)の所在把握、(2)所在が把握された地域医療関係資料の調査・取得、(3)その分析および類型化・理論化に分けて行う。特に診療録など従来研究に利用されていない医療関係資料を発掘し、その資料的価値を位置づけ、調査対象の焦点を絞る。次にそれらの資料を精読し、医療の場における医師と患者の関係等の社会史的側面を解明することに加え、診療録から得られるデータの統計的分析を行う。これにより地域医療における近世・近代の断絶と連続の側面を明らかにし、「医療の近代化」のプロセスに新たなパースペクティブを提示する。研究遂行と成果公表には、地域医療史の専門家・アーキビスト・海外研究協力者から幅広い協力を得る。

本研究では、概要に示した3つの課題に関し、3年間の研究期間内に、年毎に概ね1つを主たる課題として取り組む。研究手法は、必要な地域医療関係資料の把握とその入手(撮影・購入等)、そしてそれらの社会史的・統計的分析である。それぞれの段階で、最も適した研究協力者からの協力を得る他、撮影補助や基礎的資料の入手、データ整理等には院生アルバイトを活用する。

4. 研究成果

本研究では、大きく分けて3つの方向で成果をあげることができた。

(1) 診療録の比較検討

本研究では、作成者が明確かつまとまった分量が残存する明治期～大正期の診療録としては、栃木県塩谷郡、同、福井県美浜町の3種類の文書群を調査することができた。このほかにも、断片的に残存する診療録を数種類入手することができた。それらを比較検討した結果、近世以来の開業医(漢方医)が作成してきた診療録、同じ医師が明治以降に作成した診療録、そして医学校や大学医学部で西洋医学を習得した医師が作成した診療録には、それぞれの診療形態や依拠する医療知識、および医学教育の経験に対応した形で、疾病・治療・患者に関する情報が記録される(あるいは記録されない)ことが明らかになってきた。近世以来の開業医も、明治期以降に新たな医学知識を習得し、それが記録の方式にも反映されていったことがわかる。ただし江戸時代における診療録の作成に関する研究はほとんどないため、近世との比較のためには、さらなる事例研究が必要である。

また、それぞれの医師が作成する記録の種類にも、往診や院内治療といった診療形態や、医療費の計算方法・受け取り方法などの医業経営の形態に応じた違いや特徴があることも明らかになった。しかし、明治30年代以降、複数の地域で診療記録(とりわけ処方録)のフォーマットの共通化が全国的に進行した様子も見て取れる。これは、医学校病院や大学病院等での臨床経験を含む医学教育の過程における記録作成に関する知識や方法の共有や、開業医会や医師会等を通じた医療経営知識の共有化の進行などを背景にしていると考えられる。これについても、さらなる事例の蓄積と比較検討が必要である。

(2) 感染症流行と地域社会構造

栃木県塩谷郡喜連川町における開業医資料を用いた研究では、本格的な西洋医学教育を受けた医師が、地域社会における住民の健康状態とどのように向き合ったのかを明らかにすることができた。明治後半期から大正期にかけて充実した医療記録が残存しているが、まとまった量の処方録が存在することから、この医師による医療提供の範囲(診療圏)や、住民がどのような場合に病院を訪れたり入院したりといった医療行動をとるのか、処方録に記される戸主との関係から家族内での医療受給がどのような状況にあったのかといった、多様な論点を立てることができる。そのなかでも、本研究では地域における感染症流行への医療の対応に着目した。スペイン・インフルエンザや麻疹など、特定の年代に全国的な流行が見られる感染症が当該地域に及ぼす影響や、赤痢や腸チフスなどの常在する感染症の季節による変動などは、診療記録からつづきに見てとることができる。

しかし、この資料群で特筆すべきは、地域住民の医療記録とともに、同地域内の遊廓の性売女性(娼妓)の診断書および処方録が残存していることであった。そこで、宿場町・城下町として、近世以来の性売買の場(飯盛旅籠から貸座敷、遊廓へと変容)を包含する喜連川町とその周辺地域での、梅毒流行とそれへの医療的対応として、どのような医療が実践されているのかについて明らかにすることにした。同地域での近世における梅毒罹患の実態や治療については史料が乏しく、近世医療との比較は十分に行えないという点で課題は残ったが、近世以来の性売買の場の連続性とその変遷、町と周辺農村地域からの遊廓への人の流れ、そして性買男性(遊客)の梅毒罹患とその家族への波及を追うことができた。

さらに、栃木県における性売買や梅毒検査に関する諸規則を合わせて検討することで、この病院における梅毒治療は法定の「検査」の枠組みとは異なり、性売女性に対して梅毒治療のための「医療」を提供するものであったという可能性が浮かび上がってきた。性売女性の受診状況からは、喜連川の遊廓の梅毒蔓延はきわめて深刻な状況にあったことが推測され、この地域の罹患リスクを高めたと考えられる。統計調査の数字からも、相当程度乖離した実態があったと推測され、罹患娼妓の営業を停止するという意味での検梅制度の効果はきわめて限定的なものに止まっていたことが明らかになった。

以上のことから、本研究で目指していた1.の(1)(3)(4)の課題について検討することができた。

(3) 在村医の医療供給実態

栃木県塩谷郡塩谷町域の在村医の資料群からは、18世紀半ばから4代にわたる在村医(漢方医)による医業・薬種製造販売経営の実態を分析した。これにより、農村部における漢方医の診療が、その地域の中で担った役割を、近世後期から明治期を通して検討することができた。特に注目した点としては、周辺地域の医療環境を前提とした当該医家による医療供給の空間的範囲、医療供給の形態、時期による医療需要と供給される医療の質の変動、時系列的な医業経営の収支の変動、そして消費者である患者側の支払行動などである。これらが、近世末期から明治前半期にかけ、どのような連続性と変化を見せるのかということに着目した。

その結果、決して恵まれているとはいえない県レベルでの医療環境を背景に、塩谷郡内では「医師の近代化」はより遅れて進行し、その状況の中では在村医の役割は一貫して重要な位置を占め、診療圏は居住村周辺に止まらず代替可能性が低い山間部の無医村地域に広がり、往診に加えて遠隔地との書館を通じた医療供給も見られたことがわかった。また、「医師の近代化」進行の遅れに関わって、西洋医学を身につけた医師による医療供給がなされない以上、在村医への受容は明治後期に至るまで衰えず、医業経営としても成立し続けた。天保期には経費増大や患者数増加にともなう支払率の低下がみられるものの、通時的な医業収支においては患者数や収入に大きな変動は起きないといえる。

医業経営の内容を見てみると、年2回程度のつけ払いを基本とする医療費の支払い様式に関しては、近世から明治期にかけて基本的には変化しなかったと思われる。明治期の患者の支払率は6割前後であり、近世からやや低下傾向がみられた。患者数が増えると支払率は低下し、医療費回収にかかるリソースに限界があることが推測される。しかし、全体として医業継続が不可能になるほどの不採算に陥ることはなく推移した。

他方で、近世以来村役人や副戸長、戸長職を兼帯してきた当該医家にとって、とりわけ村請制の下では、医業での採算と並行して、村の農民の生命維持を図る動機が存在したと思われる。その観点からは、この医家による医療供給は伝統社会における「生存システム」の一部を構成した。そうした動機は明治維新後には失われるものの、競合する医療提供者が現れない以上、医業の継続は地域社会の要請からみて必須であり、これが医業継続の主たる動機であったと考えられる。

以上のように、本研究によって、イエや村などの「福祉」を支える伝統社会の諸機能がいまだ温存され、ある程度機能していたと考えられる。明治期農村地域における「生存システム」の中に、地域医療の役割を位置づけることができたと考えている。今後、この地域の近世・近代における村落構造の把握と、当該医家の家における医業と製薬業・農業経営の全体像を把握することによって、地域における公共的救済システムの実態をより具体的に明らかにすることができると思われる。これらのことより、1.の(1)~(3)の課題について検討し、考察を深めることができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 廣川和花	4. 巻 668
2. 論文標題 書評 猪飼隆明著『近代日本におけるハンセン病政策の成立と病者たち』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 63-70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣川和花	4. 巻 128(1)
2. 論文標題 書評 中村江里著『戦争とトラウマ 不可視化された日本兵の戦争神経症』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 史学雑誌	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 廣川和花	4. 巻 50
2. 論文標題 大阪の医学史研究と適塾：洪庵と適塾はどのように記念されてきたのか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 適塾	6. 最初と最後の頁 73-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Waka Hirokawa	4. 巻 10
2. 論文標題 The Struggle to Modernize Community Medicine in Late Nineteenth-Century Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 UrbanScope	6. 最初と最後の頁 26-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） info:doi/10.24544/ocu.20190606-010	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 廣川和花	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 日本の医療アーカイブズとハンセン病関係資料の研究利用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 精神医学史研究	6. 最初と最後の頁 18-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 廣川和花	4. 巻 86(2)
2. 論文標題 日本における医療アーカイブズの現状と課題 ハンセン病資料を念頭に置いて	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本ハンセン病学会雑誌	6. 最初と最後の頁 135-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Waka Hirokawa
2. 発表標題 Syphilis and Regional Community in Modern Japan
3. 学会等名 Marginal Social Groups and Historical Documents in Asia: Japan and the Ottoman Empire (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣川和花
2. 発表標題 明治期日本の梅毒と地域社会 診療記録を素材に
3. 学会等名 東京外国語大学連続講演会2018「国際日本学がめざすもの：その多面性と可能性」第4回「世界の中の日本地域史研究」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 廣川和花
2. 発表標題 明治期日本の梅毒と地域社会 栃木県塩谷郡の事例から
3. 学会等名 国際研究集会「買売春と社会：日本中世から近代まで」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 廣川和花
2. 発表標題 日本のハンセン病アーカイブズとその研究利用の可能性
3. 学会等名 第22回日本精神医学史学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Waka Hirokawa
2. 発表標題 Modernizing Doctors, Practice, and Community Medicine: Through the Lens of General Practitioners in the Meiji Period
3. 学会等名 The Meiji Restoration and Its Afterlives: Social Change and the Politics of Commemoration (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 廣川和花
2. 発表標題 医療記録を通してみる近代日本の地域社会 明治中後期の栃木県塩谷郡喜連川町を事例に
3. 学会等名 立教大学史学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 廣川和花
2. 発表標題 コメント：医療の近代化と施療・救済の観点から
3. 学会等名 大阪歴史科学協議会2019年度大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣川和花
2. 発表標題 明治時代の医師と患者 塩谷の医家文書から
3. 学会等名 氏家喜連川歴史文化研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 村田路人，島田昌一，松永和浩 編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 92 (64-70)
3. 書名 新版 緒方洪庵と適塾（担当箇所：廣川和花「明治期大阪の医学行政」、「その後の適塾」）	

1. 著者名 ダニエル・V. ボツマン，塚田孝，吉田伸之 編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 236 (117-134)
3. 書名 「明治一五〇年」で考えるー近代移行期の社会と空間（担当箇所：廣川和花「地域医療の「近代化」と明治維新ー栃木県塩谷郡の事例から」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----